



平成27年6月25日  
国土交通省中部地方整備局

## 「中部建設業現場レポート（平成27年6月分）」について

～建設企業の声をとりました～

中部地方整備局では、中部地域における建設企業の動向を的確に把握し、建設業行政の適切な運営に資することを目的として、管内各地域の地元建設業者にアンケートを実施し、その回答（景況感、人手不足の状況等）を定期的にとりまとめているのですが、今回、平成27年6月分の結果がまとまりましたのでお知らせします。

### 【結果要旨】

#### ①景況感（受注状況）について

前期に引き続き悪いと見ている企業が多いが、先行きについては良い見通しである。マイナスの原因としては、季節的要因によるものが多い。

#### ②技能労働者の不足感について

前期よりも緩和しているが、先行きについては不足すると見ている企業が多い。現状は受注状況を反映しているものと考えられる。

#### ③技能労働者の労務費相当額について

横ばい又は緩やかな上昇傾向が続いており、今後もその傾向が続くと見ている。

1. 添付資料 中部建設業現場レポート－建設企業の声－

2. 配布先 中部地方整備局記者クラブ

3. 解 禁 指定無し

4. 問い合わせ先 建政部 建設産業課長 相部 幹彦  
建設産業課長補佐 伊藤 武

TEL (052) 953-8572

# 中部建設業現場レポート

## －建設企業の声－

### 中部建設業現場レポートの概要

#### (1) 目的

中部地域における建設企業の動向を的確に把握し、建設業行政の適切な運営に資することを目的とする。

#### (2) 内容

管内各地域の地元建設業者が回答した景況感（受注状況）、技能労働者の不足感、技能労働者の労務費相当額の状況、その他建設業に関する状況を中部地方整備局で集約

#### (3) 実施方法

メール、FAX等によるアンケート(181社)及び企業への個別ヒアリング(45社)により実施。

※アンケートと個別ヒアリングを実施した企業は一部重複する。

#### (4) 公表時期

原則3月、6月、9月、12月の年4回

#### (5) 対象地域

愛知県、岐阜県、三重県、静岡県

平成27年6月  
国土交通省 中部地方整備局  
建政部 建設産業課

# 「中部建設業現場レポート」(H27.6月)

※下段( )書きは前期との変化幅

調査項目	調査年月	今回調査分						
		H26年3月	H26年6月	H26年9月	H26年12月	H27年3月	H27年6月	H27年9月 (見通し)
景況感(受注状況)DI (「良い」-「悪い」・%ポイント)		16	-4 (-20)	23 (+27)	6 (-17)	-12 (-18)	-26 (-14)	14 (+40)
技能労働者不足感DI (「不足」-「過剰」・%ポイント)		67	36 (-31)	60 (+24)	63 (+3)	26 (-37)	-4 (-30)	27 (+31)
技能労働者労務費DI (「上がっている」-「下がっている」・%ポイント)		45	40 (-5)	38 (-2)	28 (-10)	24 (-4)	20 (-4)	22 (+2)

※調査対象企業数：181社

※有効回答企業数：181社 (回答率100.0%)

※調査期間：H27年6月2日～19日

※調査基準日：H27年6月20日

## 要旨

### ①景況感(受注状況)について

前期に引き続き悪いと見ている企業が多いが、先行きについては良い見通しである。マイナスの原因としては、季節的要因によるものが大きい。

### ②技能労働者の不足感について

前期よりも緩和しているが、先行きについては不足すると見ている企業が多い。現状は受注状況を反映しているものと考えられる。

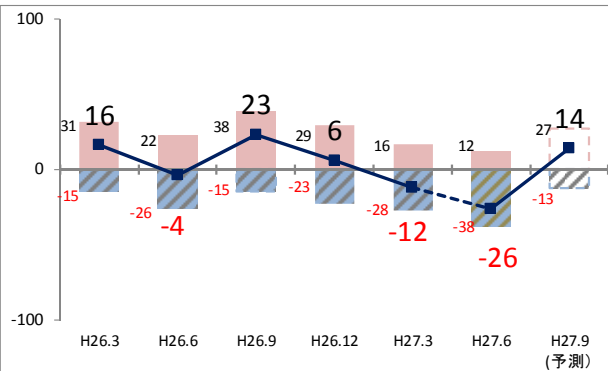
### ③技能労働者の労務費相当額について

横ばい又は緩やかな上昇傾向が続いており、今後もその傾向が続くと見ている。

# 1. 景況感（受注状況）について

※アンケートを単純集計したものである。  
 ※ポイント(%)は小数点第1位にて四捨五入している。

## 中部圏

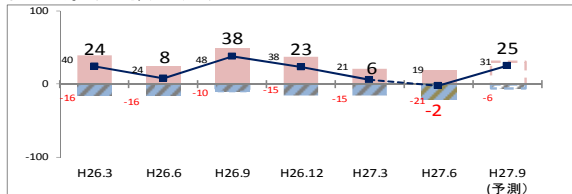


○ DI値(良い-悪い)

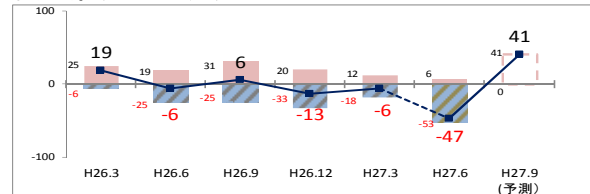
地域区分	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9 (予測)	
<b>中部圏計</b>	<b>16</b>	<b>-4</b>	<b>23</b>	<b>6</b>	<b>-12</b>	<b>-26</b>	<b>14</b>	
愛知県	尾張地方	24	8	38	23	6	-2	25
	三河地方	19	-6	6	-13	-6	-47	41
岐阜県	美濃地方	43	-7	18	0	-57	-63	0
	飛騨地方	54	0	23	-8	15	-46	-15
三重県	北中部地方	-11	-12	17	5	-11	-33	-11
	南部地方	-34	-27	-8	-34	-50	-27	27
静岡県	東部地方	31	-16	15	0	-30	-46	7
	中部地方	-8	-30	8	7	-23	-47	8
	西部地方	0	0	30	7	-23	-16	7

## 各地域

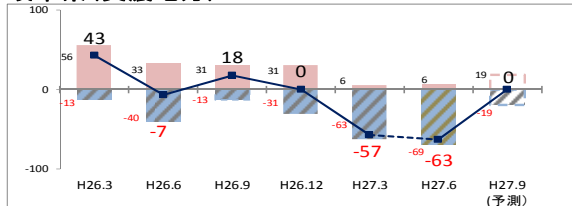
愛知県(尾張地方)



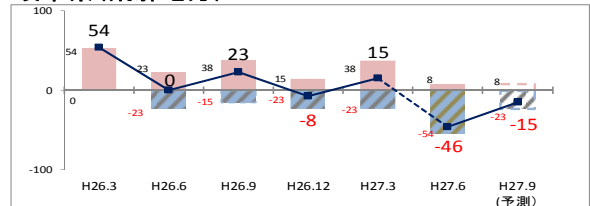
愛知県(三河地方)



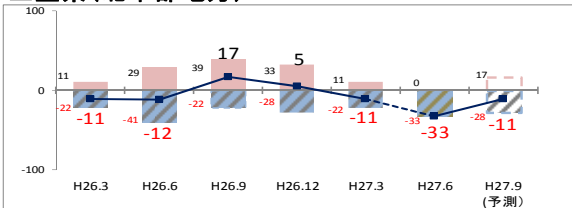
岐阜県(美濃地方)



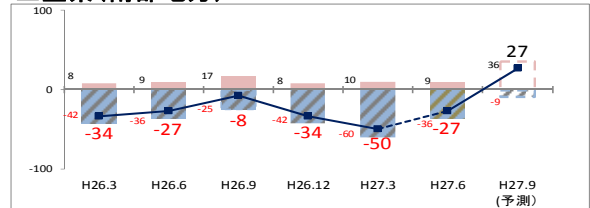
岐阜県(飛騨地方)



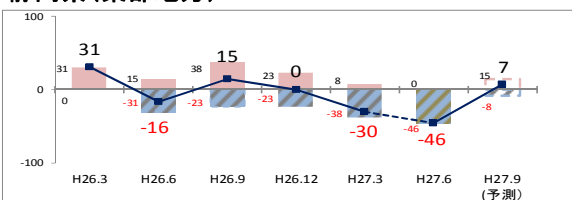
三重県(北中部地方)



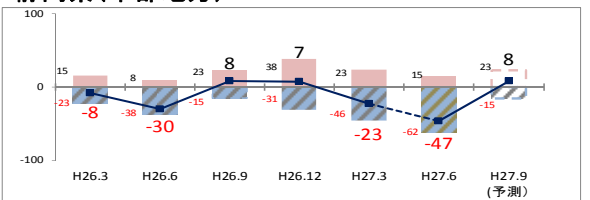
三重県(南部地方)



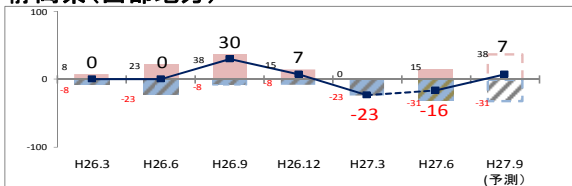
静岡県(東部地方)



静岡県(中部地方)



静岡県(西部地方)



## 主な声

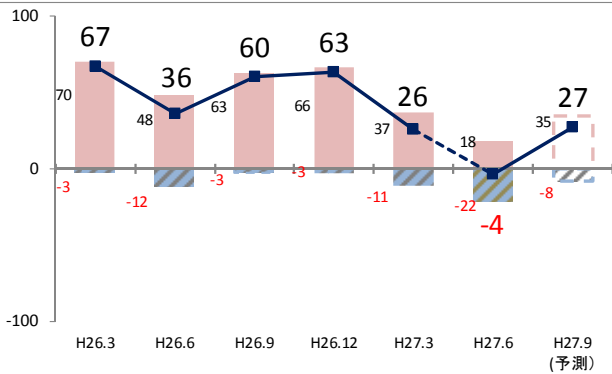
### (受注状況・受注見通し)

- 建設業界全体では景気は活況に向かっていると思う。(元請)
- H27年度予算の発注見通しは少し件数が少ない印象で、受注の先行きが不安。業者間の叩き合いを懸念している。(元請)
- 製造業で国内回帰の傾向があり新規工場を増設するなど、設備投資が増加していく見込み。(元請)
- 現在は、大きな波のあとで穴がある時期。中部圏のピークは過ぎたのでは。(元請)
- トンネル工事単価が上がり人手を確保するのに苦慮している。(元請)
- 今年度予算について、予算は減っているが受注が落ち込んだと言う印象はない。(元請)
- 土木、建築共に会社の手持ち工事が多すぎるので、受注をセーブしている状況。(元請)
- 20～30社の中での競争となり、見積費用、技術提案作成のための人手・費用が必要。(元請)
- 最近鉄骨造りが増えており、型枠工事としての需要が減っている。(大工)
- ちょっと低調だが第一四半期はいつもこんな感じである。(鉄筋)
- 受注状況については、4、5月ぐらいまでは忙しかったが、公共工事も出ていないので今は仕事が少ない状況。(鉄筋)
- 受注状況は良い。人さえいれば、どれだけでも受注できるような状況。(機械土工)
- 年間の仕事量の差が非常に激しい。現時点においては、工事はほとんどない状況。(内装)
- 例年は4～5月は仕事がない時期であるが、現在は自社及び主たる協力会社の社員でまかなえるくらい仕事がある。(大工)
- 平準化がすすんでいるのか、年度末の工事が減ってきているような印象がある。(鉄筋)

## 2. 技能労働者の不足感について

※アンケートを単純集計したものである。  
※ポイント(%)は小数点第1位にて四捨五入している。

### 中部圏

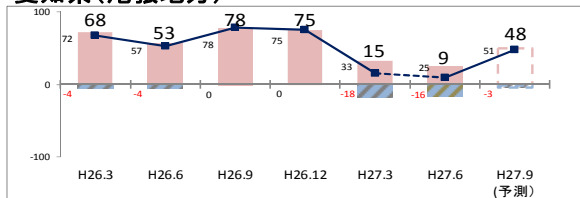


○ DI値(不足-過剰)

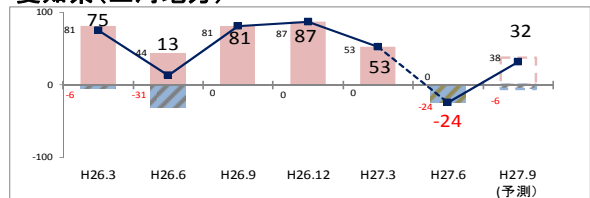
地域区分	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9 (予測)
<b>中部圏計</b>	<b>67</b>	<b>36</b>	<b>60</b>	<b>63</b>	<b>26</b>	<b>-4</b>	<b>27</b>
愛知県							
尾張地方	68	53	78	75	15	9	48
三河地方	75	13	81	87	53	-24	32
岐阜県							
美濃地方	69	34	75	75	19	0	6
飛騨地方	69	62	62	38	38	8	7
三重県							
北中部地方	72	41	61	55	50	11	11
南部地方	33	0	0	17	-40	-27	-9
静岡県							
東部地方	92	0	54	69	54	-31	15
中部地方	54	8	7	38	23	-23	31
西部地方	69	46	39	54	38	-15	23

### 各地域

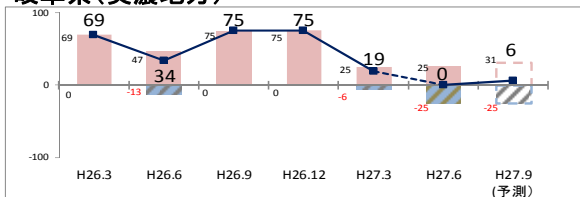
#### 愛知県(尾張地方)



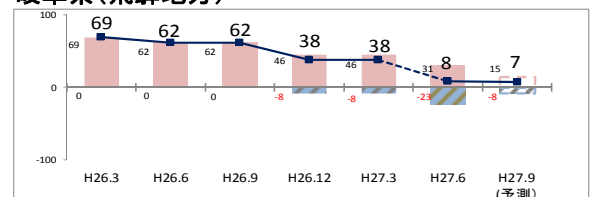
#### 愛知県(三河地方)



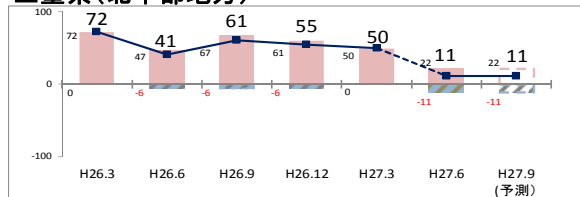
#### 岐阜県(美濃地方)



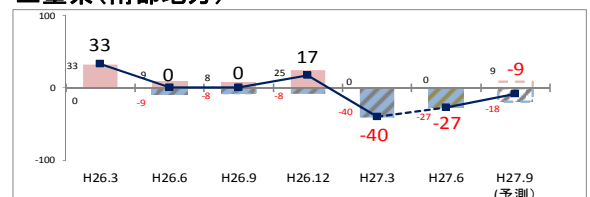
#### 岐阜県(飛騨地方)



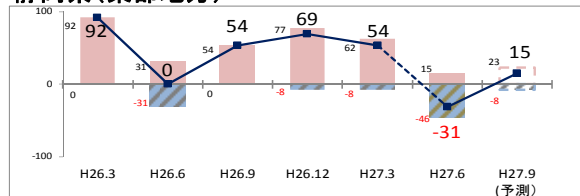
#### 三重県(北中部地方)



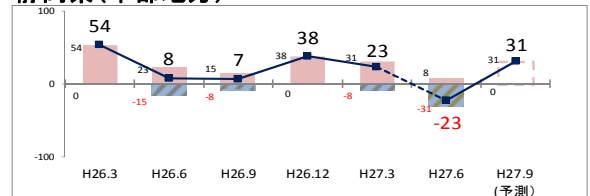
#### 三重県(南部地方)



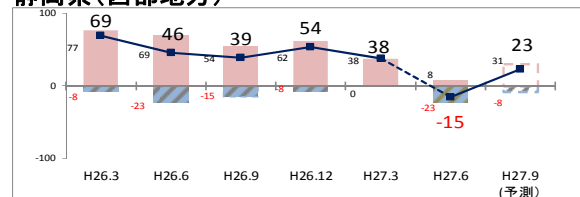
#### 静岡県(東部地方)



#### 静岡県(中部地方)



#### 静岡県(西部地方)



## 主な声

### (不足感について)

- 人手は東京・東北に流れていると思われる。(元請)
- トンネル関係は全国的に足りない。単価のいいところに全国何処へでも行くため奪い合いの状態。(元請)
- 高齢者と外国人実習生で仕事が回っているのが実情。(鉄筋)
- 人手は困っていない。塗装はだいたいそうではないか。(塗装)
- 左官工は一人前になるのに最低でも5年かかる。この10年間は入職が少ないため、熟練者が足りない。取り戻せない10年となった。(左官)
- 不足感を感じない。無理に請け負うことはしない。(大工)

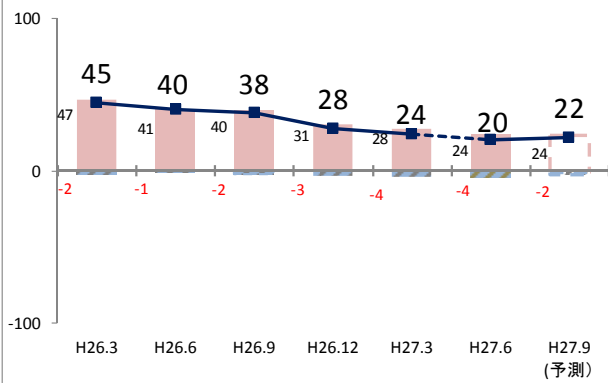
### (不足感に関する対策)

- 昔は下請に突発で出してもすぐ確保できたが、最近は早期に計画的に下請確保に動いている。(元請)
- 採用活動としては、大学については求人サイトを通じ行っている。高校については、インターンシップの案内をしたり、就職担当の教師への顔出しをしてパイプを作るようにしている。(元請)
- 4週6閉所は現在30%のところ、実施率60%を目指している。しかし休日休むモデル事業を行ったところ、下請業者には受け入れられず休日には別の現場で働くのが実態。(元請)
- 今年採用の15名のうち5名が女性で、積極的に採用している。そのうち1名は現場での仕事(現場支援業務)を希望している。昨今マスコミでドボジョやけんせつ小町で取り上げられているのを見て建設業を希望したとのこと。(元請)
- 離職防止として、新規採用者に対しては半年間社内研修を実施している。(元請)
- 保険に入っているということをしっかりアピールしないとなかなか入ってこない。型枠の人手が減少していくと型枠を必要としないプレキャスト等の新たな工法がどんどん採用されていって型枠大工自体が不要となってしまう。(大工)
- 4月に採用してもGWか盆休みで辞めてしまう。他業種の友達の収入を聞いて別業界に行ってしまう。金額面も良くしないとダメ。(タイル)
- 国家資格取得に向け試験費用と講習費用は会社が負担し、合格者には報奨金を出している。また、会社に誰がどの資格を取得しているか貼り出して士気を高めている。(電気)
- 毎年工業高校から3名程度の新規雇用がある。地元工業高校からは入職は見込めないが、10年程前から九州の工業高校(5校)に訪問し、進路指導の先生と意見交換を行っており、そのパイプで毎年1~2名程の採用に至っている。(左官)
- 週休2日と報酬を重視して、新卒者を雇おうとしているが集まらない。(鉄筋)
- 女性はこれまで特に求人していなかったが、塗装(特に内装)では、女性の方が向いているのではないかと思う。今後は、女性が働きやすい環境作りを行って、女性の求人を行っていきたいと思っている。(塗装)

# 3. 技能労働者の労務費相当額について

※アンケートを単純集計したものである。  
※ポイント(%)は小数点第1位にて四捨五入している。

## 中部圏

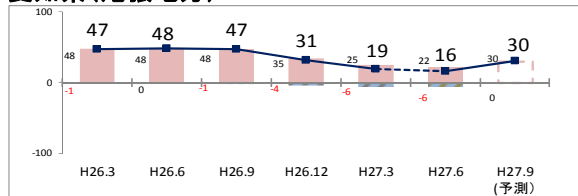


○ DI値(上がっている-下がっている)

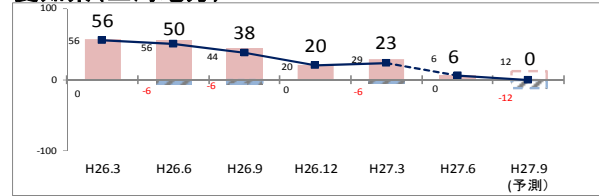
地域区分	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9 (予測)
<b>中部圏計</b>	<b>45</b>	<b>40</b>	<b>38</b>	<b>28</b>	<b>24</b>	<b>20</b>	<b>22</b>
愛知県	尾張地方	47	48	47	31	19	30
	三河地方	56	50	38	20	23	6
岐阜県	美濃地方	38	47	25	31	38	25
	飛騨地方	54	31	31	8	38	38
三重県	北中部地方	50	41	33	28	22	28
	南部地方	9	27	17	8	-10	-18
静岡県	東部地方	46	15	54	46	31	38
	中部地方	30	31	46	38	31	31
	西部地方	69	38	23	38	38	23

## 各地域

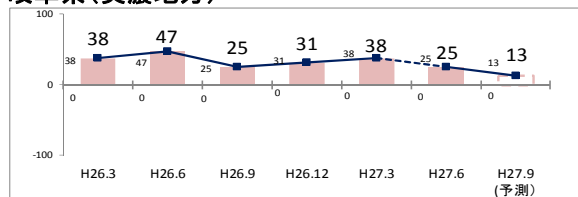
### 愛知県(尾張地方)



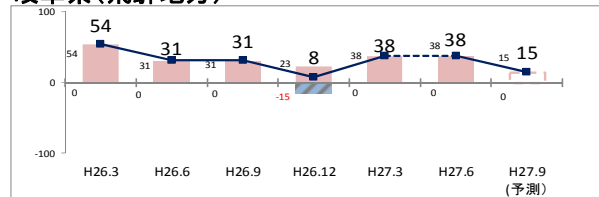
### 愛知県(三河地方)



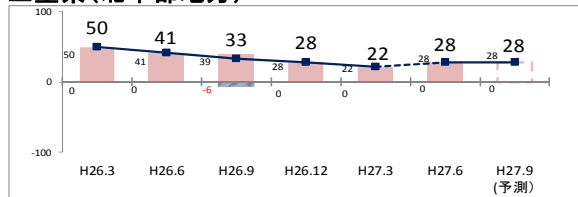
### 岐阜県(美濃地方)



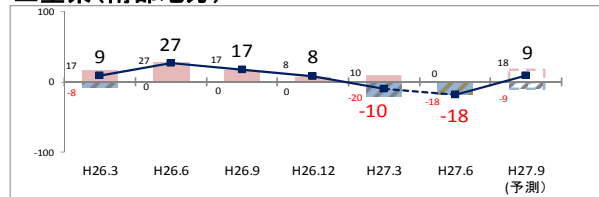
### 岐阜県(飛騨地方)



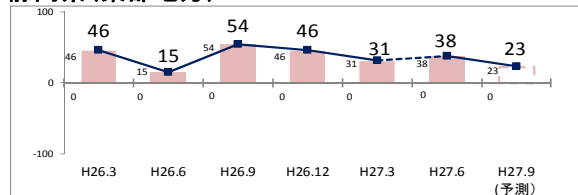
### 三重県(北中部地方)



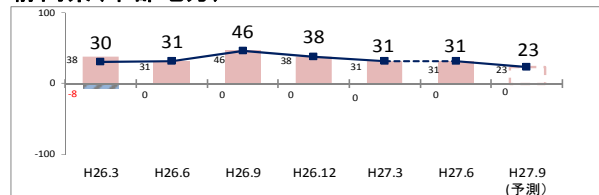
### 三重県(南部地方)



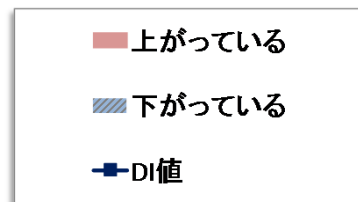
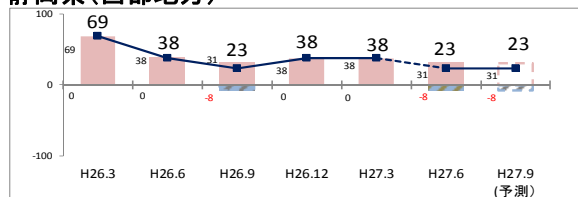
### 静岡県(東部地方)



### 静岡県(中部地方)



### 静岡県(西部地方)





## 主な声

### (賃金水準)

- 公共事業で労務費がアップしているが、公共事業はほとんど土木であって、民間の建築においては、職人の賃金まで届いていないのではないか。(内装)
- 賃金はじわじわ上がっている感じ。(大工)
- 労務単価の影響は世間に認識されたという意味では多少影響ある。公共では上がってきているが民間は鈍い。(躯体)
- 元請からの労務単価は上がってきてる。今年どこかでベースアップをすることになるだろう。(大工)

### (法定福利費関係)

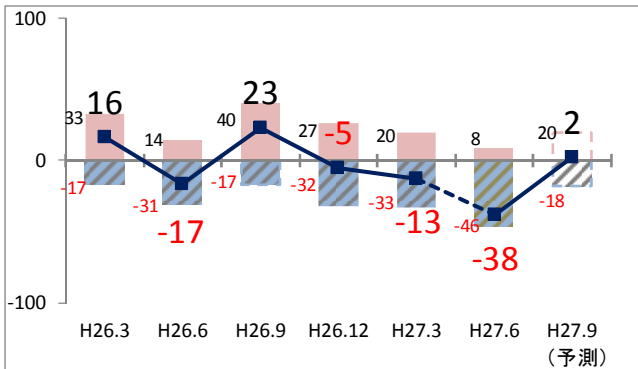
- 標準見積書については、元請として提出を指導しているので下請から提出されている状況。(元請)
- 高齢化が如実に現れており、社会保険加入の負担で廃業となるケースがある。高齢のため今さら加入してもしょうがないという雰囲気がある。(元請)
- 来年度以降契約するものは標準見積書を活用したい。(躯体)
- 標準見積書は使っていない。標準契約約款に入れ込む等、義務化されないと改善されないのではないか。(大工)
- 社会保険に加入すべきであることは分かる。ただ、今まで払っておらず、年金がもらえるか分からない人達に払ってもらうには、どのように説明すれば良いか分からない。制度を整備して欲しい。(鉄筋)
- 標準見積書は使っていない。型枠協会の研修では使用するよう指導されるが、元請からは、現状の価格に全て入っているとされる。2次には加入も含め使用するよう指導している。(大工)
- 見積り書は標準見積書をベースに作成しており、社会保険は別枠で記載するようにしている。最近ではゼネコンからも理解を得られている。(鉄筋)

# 【参考】 土木・建築別の集計

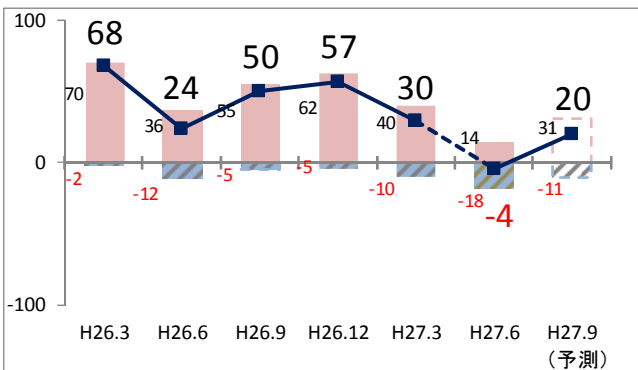
調査対象企業(181社)のうち、土木工事主体の企業(65社)及び建築工事主体の企業(41社)を抽出し集計した。

## 土木工事主体の企業(中部圏計)

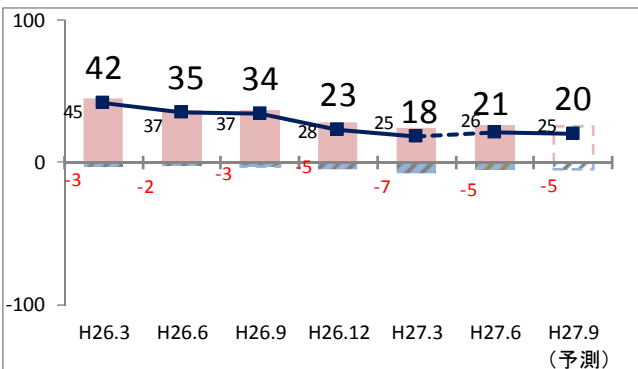
### 1. 景況感(受注状況)



### 2. 技能労働者の不足感

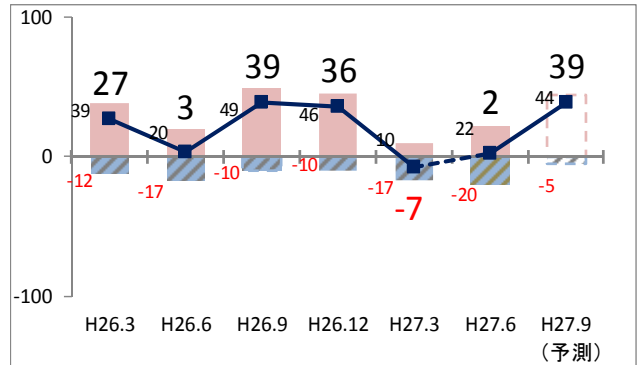


### 3. 技能労働者の労務費相当額

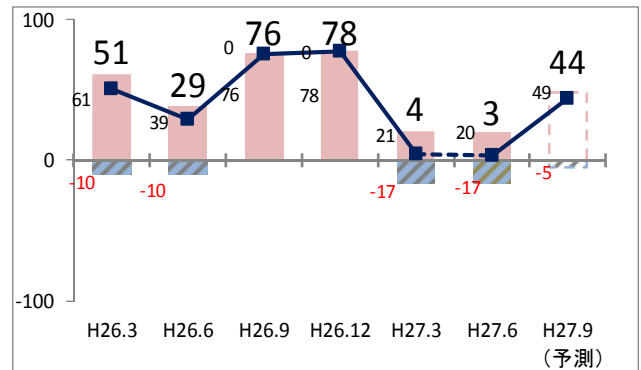


## 建築工事主体の企業(中部圏計)

### 1. 景況感(受注状況)



### 2. 技能労働者の不足感



### 3. 技能労働者の労務費相当額

